

# Politico-economical Aspects of Koryak Reindeer Breeding in Kamchatka: A Case Study of Karaghinskiy Region

Minoru OSHIMA  
Otaru University of Commerce

コリヤークのトナカイ遊牧に関する政治経済的考察  
—カムチャツカ州カラギンスキー地区を例に—

大 島 稔  
小樽商科大学

Keywords: Koryak, Reindeer Breeding, Politics, Economics, History  
キーワード：コリヤーク、トナカイ遊牧、政治、経済、歴史

In this paper, mainly based on the data gained through my field researches in Karaghinskiy region, the author describes and discusses the change of traditional ways of reindeer breeding and social life in the communities transformed by industrialization of indigenous subsistence activities through collectivization and consolidation and abolishment of traditional settlements into “modernized” and electric powered bigger local towns under the economic policy of enlarged Sovkhoz and post-perestroika.

After Koryak National Okrug was set up in 1930, there were 5 Kolkhozes in Karaghinskiy Rayon: Karaga, Kichiga, Tymlat, Anapka, Rekinniki. In 1950 Kolkhoz in Tymlat and Kolkhoz in Kichiga were reorganized into Kolkhoz *Turvine* in Tymlat. In 1965 reindeers of Korkhoz *Udarnik* were moved from Karaga to Anapka, merging into Kolkhoz *TumgEtum*. In 1970 *TumgEtum* and *Turvine* were united and then reindeers from Korkhoz in Rekinniki merged into it to form the enlarged Sovkhoz *Druzhiba*.

It can be concluded that the management of productivity of reindeers was not a complete failure in terms of economics before the Perestroika. In Karaghinskiy Sovkhoz, the total number of reindeers 17,000 ~19,000 herded by 12 working teams and fertile females were 60% (10,800), although actually more than 22,000 heads were herded including privately-owned reindeers. So it was not so difficult to achieve the productive plan. Every year 4,000, later 5,000, heads were butchered for meat and hides. If the birth rate was 50%, it could have been possible to have 5,400 heads available for harvesting, although it went without saying

that the government provided reindeer breeders with enough provisions, equipments and transportations, and shooting off wolves.

While the management of productivity has been successful, traditional ways of Koryak reindeer breeding have changed a lot.

Koryak people dislike a new way of bloody butchering in which they chased reindeers into corrals to harvest, and they used guns or hummers or spikes to butcher reindeers. A new way to use a knife to cut the sperm tube off testicles was introduced in 1960's instead of Koryak traditional method of castration by using their teeth. Koryak people in Karaghinskiy region had to buy reindeer meat from a Rybkoop (consumers' cooperation) shop at a very cheap price: reindeer meat cost 8 kopeyka per kg in contrast to 1 rouble 70 kopeyka of other kinds of meat. So in Karaga, for example, some people gave up possessing reindeers and killed all the private-owned reindeers because they thought they could always buy the meat very cheap.

After perestroika, everything changed. First of all the governmental support stopped completely. It meant they had to give up their large-scale herding. They had no supply of provisions and they couldn't sell meat and hides because Meat and Milk Combinat and Gospromkhoz in Ossora stopped operating for reindeer meat and hides. So they started consuming reindeers and suffering of attacks by wolves.

In 1992 they disorganized Sovkhoz and divided into 2 private reindeer husbandries: Shamanka (4,500 heads), Rekinniki (6,500 heads) and Sovkhoz (6,000 heads).

During privatization of reindeer herding, many people visited the tabun (herding camps) and received 1 or 2 heads of reindeer meat in exchange of vodka or bandit flew to the tabun to kill and bring back reindeers by helicopter.

By 1997, Shamanka had lost 2,000 heads, while Rekinniki had lost 2,500 heads. This big loss of reindeers triggered in 1998 to reunite private husbandries into agricultural cooperation 'Druzhba', the same name as the former Sovkhoz.

All in KAO the same had happened. In 2000, 9 sovkhoses had 35,000 heads and 7 herding husbandries had 1,355 heads.

Recently, the KAO governor banned slaughter of reindeers for sale in order to increase the number of reindeers. In 1998 the Law of KAO 'About reindeer herding in KAO' was passed for tax relieves and social support.

In 1999 the Law of KAO "About the fund for reindeer herding" was passed for strengthening of the material-technical equipment base of the reindeer herding and to give financial support to purchase provisions, overalls, equipment, and delivering cargo for reindeer herders and to shoot off wolves.

Though crises are still going on, the first positive tendencies have been laid. In 2000 the reindeer herders of KAO got 60 calves each 100 January fertile does, which are by 6 heads more than those in 1999.

The KAO government is optimistic saying that by the end of 2000 the number of reindeer in sovkhoses except private reindeers and peasant's husbandry, will increase up to 39,500 heads. Further the tempo of increasing is planned in the rate of 8.5% and by the end of 2005 year the number of reindeers in KAO must be 60,000 heads.

トナカイ遊牧は、カムチャツカのコリヤーク自治管区では、現在でも「コリヤーク自治管区 (KAO) 先住民の経済活動の中でも伝統的な主要産業であり、生活様式、世界観、民族の文化と伝統の形成に深く関わっている」(Корякский Автономный Округ 2000: 24) とされている。しかし、コリヤーク自治管区が作られた1926年当時(当時は「コリヤーク民族管区」と称されていた)、カムチャツカ全体で260,000頭いたと推定されるトナカイが、2000年時点でその飼育頭数は、39,500頭まで激減している。この約75年の間にトナカイ遊牧に何が起きたのであろうか。旧ソ連とロシア連邦における政治・経済との深い関わりを考えなければ説明できない問題であろう。

コリヤークのトナカイ遊牧における政治的・経済的影響を分析する際に、4つの時期に分けて考察すべきであろう。第1に帝国ロシア時代、1697~1699年のアトラソフに率いられたコサック兵と最初の接触、ヤサクと呼ばれる毛皮税の徴収とヨーロッパからの商品の流入、第2にソビエト政権下における先

住民生業の産業化とトナカイ遊牧民の定住化政策、第3に産業の拡大による生産性向上のため、かつ中央集権支配強化のために進められた居住地の合併と廃村、第4にペレストロイカ以後の経済危機下における先住民企業の低迷期である。

本稿では、自治管区全体の歴史資料、カラギンスキー地区の統計資料、ソフホーズ資料に加え、現在のトナカイ遊牧の中心地Tymlatでソ連時代にソフホーズで、現在も民営企業で遊牧に従事している人達への面接調査から得た情報を使っている。

ソ連時代とペレストロイカ以後の2つの時期において、トナカイ遊牧の牧畜産業としての経済的側面の評価、伝統的と近代的牧畜方法の比較、牧畜産業化がもたらした社会的影響について考察した後、現時点での社会・経済上の政策がどうなっているかを検討する。

カラギンスキー地区には、1930年代にKaraga, Kichiga, Tymlat, Anapka, Rekinnikiの村落にコルホーズ (Kolkhoz 集団農場) が組織された。1950年にまず、Kichigaのトナカイ飼育がTymlatに吸収、1965年にKaragaのトナカイ飼育がAnapkaに吸収される。

カムチャツカでは1960年代になるとトナカイ飼育規模の拡大が始まり、各地の小規模ソフホーズが1カ所に集められ、拡大ソフホーズとなった。国家によるトナカイの生産計画と再生産管理は、より厳しくなり、カラギンスキー地区統計局の統計にも各ソフホーズからのデータを集計した資料としてトナカイ総数だけではなく、妊娠可能な雌 (vazhenok) および初出産の雌 (n'et'eley) が統計としてとられるようになる。そして、1970年にRekinnikiを吸収して、拡大ソフホーズ (Sovkhoz 国営農場) Druzhbaが完成する。

このトナカイ牧畜経営の大規模化は、結論を先に言うと、失敗であったとは言えない。「表2のカラギンスキー地区におけるトナカイ飼育統計」を見るとわかるように、1986年に最大数の19,773頭であった。妊娠可能なメスは、内数で10,833頭であり、総数の55%である。聞き取り調査では、もう少し高く60%である。公式の数値は、planと呼ばれ、実際には、私有トナカイを含めると最大遊牧数は、約22,000頭であったというからさらに余裕があった。ペレストロイカ前後の期間、平均17,000頭に対して、毎年、4,000頭(後に5,000頭)を屠殺していたという。

出生率を50% (50~55% [Krupnik 1989:99]) と低く見積もって計算しても、 $17,000 \times 0.55 \times 0.50 = 4,675$ 頭なので、毎年、ソフホーズで4,000~5,000頭を屠殺するのは、可能であったと思われる。

ソフホーズは、毛皮、角をゴスプロムホーズ (Gospromkhoz 国営狩猟・漁撈会社) に売り、肉を「肉・乳牛加工場」とRybkoop (消費生活協同組合) に卸していた。

トナカイ肉はOssoraやKaragaなどの村でRybkoopの店で購入できた。肉の価格は、牛肉や豚肉がkgあたり1 Rouble 70 Kopeykaなのに対して、トナカイ肉は、kgあたり20 Kopeykaで、トナカイ肉は、他の肉の8分の1強の安さであったという。オッソラの加工場では、燻製トナカイ肉ソーセージを製品化し、カラギンスキー地区で販売する

他にペトロパブロフスク (Petropavlovsk-Kamchatskiy) 市、さらにはマガダン (Magadan) 市まで輸送していたという。

ゴスプロムホーズでは、トナカイ毛皮を毛皮外套、子供用つなぎ服、帽子、寝袋、カーペットなどの製品に加工していた。

これらのソフホーズにおける「経営的成功」は、もちろん、食料、衣服、装備、運送、交通を始め、オオカミの駆除など政府の資金的援助が前提であり、特にトナカイ肉の安さは、あきらかに「逆ザヤ」であろう。

この拡大ソフホーズがコリヤークのトナカイの遊牧法にいくつかの変化をもたらした。

ソフホーズは、12 zv'eno (作業班) から成る。10のzv'enoは、通年遊牧に従事する産業用で、1,700~1,800頭を遊牧する。残り2つのzv'enoは、季節的に編成される。後者は、2月から3月に組織され、2手に分かれて、10のzv'enoからbrakと呼ばれる病気・怪我のトナカイ、不妊のトナカイを集め、夏に遊牧をしながら、9月~10月にかけて、Ossoraに行く。そこで全てのトナカイを屠殺した。

最大の変化は、家族で遊牧していたが、5~10人の成人男性と1~2人の女性という作業班を編成して、遊牧をするようになり、家族主義が崩壊し、遊牧技術の次世代への伝授が停滞することになった点である。

また、屠殺方法も大きな変化を蒙った。ソフホーズでは、分散する12の作業班からトナカイを集め、9月~10月にかけてOssoraに集まり、屠殺した。屠殺方法は、銃で撃つか、屠殺場では、柵があって板の上にトナカイを追込み、板の上に頭を置いて、後頭部をナイフまたはピックで刺す方法である。大地に血を流さないコリヤークの伝統的方法とは大いに異なる。

内臓は、肺臓と肝臓は獣医が検査した後で売った。腸と胃と脂肪は犬の餌にした。だから、屠殺場はいつも綺麗だった。大量屠殺の時に、頭骨、内臓の一部、蹄が捨てられ地面に埋められた。コリヤークにとっては、大損失と思われた。女の人の中には、輸送手段がある場合には、捨てられたものをもってKaragaに持って来る者がいた。大量屠殺だと処理に困るので、小規模トナカイ遊牧の方が自分達の生活に合っている、と考えるコリヤークが多い。

9月~10月の初めは、トナカイ毛皮を保存するには暖かすぎる。雪も少なく暗い季節である。毛皮はすぐに腐敗してしまうため、Gospromkhozでは、塩漬けにして保存の後乾燥させる方法をとった。

また、去勢の伝統的方法は、歯で精管を切る無血法であって、トナカイを病気にしない方法と見なされていたが、1960年代に新しい去勢法が導入された。睾丸を縛って、小さなナイフで精管を切る方法である。しかし、これは出血する。痛みがあり、病気になることがあるので、良くないと思われていた。

1970年のソフホーズへの大統合の時、Karagaで、これからは、トナカイ肉を店で買うからと言って、私有トナカイを全て屠殺してしまう者がいた。しかし、個人所有トナカイを保存した人もおり、その人

たちはソフホーズ解体までに私有トナカイを増やしていた。

トナカイ飼育の統合に伴う廃村の社会的影響も見逃せない。政府は、トナカイ牧畜や漁業に特化したコルフーズ、ソフホーズを作って生産性向上を図ったため、表1の「遊牧規模の拡大と移住・廃村の歴史年表」で見るとおり、相次ぐトナカイ牧畜の合併と村落の移動・廃止が起こった。

コリヤークは、廃村について、「根を切られた」感じであると証言する。1970年の拡大ソフホーズ後、初期には、PodkagernayaとRekinnikiでは、若い人のみがTymlatに移住し、年寄りや古い場所に残っていたが、1980年に政府の命令により、年寄りも含め全員が移住するように決定した。移住地で多くの年寄りが死んでいる。

ペレストロイカ以後のトナカイ頭数減少の原因は、複合しているが、やはり中央政府からの資金的援助の廃止が最大である。これにより、1) 給料の遅配で売却する頭数が増えた、2) 食料が少なくなって増殺する数が増えた、3) ヘリコプターによるオオカミ駆除が行なわれなくなって頭数が減った。

また、ソフホーズ解体時の経済混乱期には、ロシア人がウォトカを持って現れ、トナカイを1~2頭屠殺して持って行く。また、bandity「ギャング」がヘリコプターで来てトナカイを殺して持って行った。牧童は、ギャングが誰なのかわからない、と言った事件も各地で起きている。

その結果、カラギンスキー地区では、1992年にSovkhozを6,000頭に縮小し、新たに2つの民営企業が作られた。Shamankaには4つの作業班で4,500頭、Rekinnikiには、4つの作業班で6,500頭を遊牧していたが、1997年にShamankaでは4つの作業班が2つ(50人)に縮小し、飼育頭数も2,500頭になった。また、Rekinnikiも4つの作業班が3つに減り、飼育頭数も4,000頭に減った。1998年には、ShamankaとRekinnikiを再統合し、新たにDruzhbaという企業体に再編した。

KAO政府は、現在、トナカイ増産のため、自家消費以外は、肉販売のための屠殺を禁止している。また、1998年にKAO法令「KAOにおけるトナカイ牧畜」が成立し、民営企業の免税措置がとられた。1999年には、KAO法令「トナカイ牧畜基金」により、トナカイ牧畜への物質的・技術的援助、資金的援助を漁業会社、鉱山会社、KAO政府予算から拠出によって行う決定がなされた。1999年度6,000,000R、2000年上半期3,404,000Rが援助され、食料、衣服、装備、輸送とオオカミ駆除が含まれた。2003年には、トナカイ産業従事者一人当たり1,000Rの補助も決定した。

これらの政策に対して、政府は、2000年には、1月統計の雌100頭当たり60頭出産で、これは、1999年の54頭より6頭増産したと評価している。さらに、「2000年度の終わりに39,500頭を見込み、8.5%の増産率アップを見込むと2005年には、60,000頭になる。」と予想している。

確かに、現KAO政府の目標とする飼育頭数は、トナカイ飼育に従事する牧童の潜在的な能力から見ても可能であろう。しかし、現在の漁業と比べると、トナカイ遊牧は、国家経済によって、あるいは地方

経済によって、産業としては、見捨てられたとしか言えない。トナカイ遊牧に従事する者が、自力で産業として再生するには、ペレストロイカ以後に破壊された流通市場をいかに回復させるかという大きな問題もあり、また、ソ連時代とペレストロイカ以後にコリヤーク社会が蒙った家族、遊牧技術の伝承、トナカイ儀礼の多くが廃止された文化の問題も残るであろう。

*Acknowledgement*

First, I would like to thank the Kamchatka Branch of the Pacific Institute of Geography, Far Eastern Department of Russian Academy for helping make my field work easier and encouraging my study in Kamchatka. I also would like extend my gratitude to many Koryak people in Karaghinskiy Region, who gave the author their precious information about reindeer breeding, especially a reindeer breeding master, Aleksey Spiridonovich Kolegov and his son Spiridon Alekseyevich Kolegov, former director of the Sovkhoz, both of whom gave the author the data and information about traditional and modern ways of reindeer breeding.

参考文献

1. 池田元博 (2004), 『プーチン』: 新潮社新書
2. Jochelson, Waldemar (1908,[1975]), "The Koryak", *Jesup North Pacific Expedition* Vo.6, AMS Press, Inc. New York
3. Корякский Автономный Округ (2000), 70 лет Корякский Автономный Округ Атлас 1930-2000, Палана
4. Krupnik, Igor I. (1989) *Arkticheskaya etnoekologiya; modyel' traditsionnogo prirodopolzovaniya mopskikh okhotnikov olyenyevodov Syevyernoy Yevrazii*, Moskva: Izdatyel'stovo «Nauka»

表1: 遊牧規模の拡大と移住・廃村の歴史年表

1930年 12月10日全ロシア中央執行委員会の決議により、Koryak National Okrug (Later Koryak Autonomous Okrug) (コリヤーク民族管区) (後のコリヤーク自治管区)が認められる。

1930年代 Karaga, Kichiga, Tymlat, Anapka, RekinnikiにKolkhoz

1937年 管区都がKameskoyeからPalanaに移る。

1950年 トナカイ遊牧ルートに中間基地3つと囲い柵がはじめて作られる。

1950年 Tymlat + Kichiga 合体し、TymlatにKolkhoz Turvine ができる

1959年 Old Anapka村がNew Anapkaに移住。

1960年 Old KaragaからNew Karagaへ移住。

1960年 Kichiga村廃村

1960年代 急激な経済開発期、人口急増。Karaghinskiy Regionの経済統計に総

数の他に妊娠可能な雌(важенок)および初出産の雌(нетелей)の内数が現れる

1965年 Karagaのトナカイ遊牧がAnapkaのKolkhoz TumgEtumに吸収合併される。KaragaのKolkhoz Udarnikが漁業に特化

1970年 TumgEtumとTurvine、RekinnikiのKolkhoz Shamakaが合体し、拡大Sovkhoz Druzhibaができ、Sovkhoz本部がPustoretskからTymlatに移る。

1970年 RekinnikiがPenzhinskiy RayonからKaraghinskiy Rayonに行政区換え。Karaghinskiy Rayonの面積が26.9km<sup>2</sup>から40.6km<sup>2</sup>になる。

1974年 New Anapka廃村 Il'pyr'で漁業に特化

1980年 Rekinnikiが廃村となる

1989年 人口が急減し始める。

1992年 民営化小切手の公布。全国で、46,000社超が民営化

1992年 Karaghinskiyでもソフホーズが解体、2つの民営企業ができる

1993年 2月までに国民の97%が民営化小切手を受け取る

1998年 すべての民営企業を統一し、Druzhbaという企業体に再編

表2: Karaghinskiy Rayonにおけるトナカイ飼育統計:1940~2003(1月1日現在)  
雌:妊娠可能な雌および初出産の雌

年度	総数	雌(内数)	年度	総数	雌(内数)
1940	8,546		1972	14,284	6,743
1941	10,794		1973	16,384	7,301
1942	13,329		1974	16,719	7,230
1943	13,894		1975	16,570	7,746
1944	13,728		1976	17,017	8,041
1945	15,142		1977	17,091	8,175
1946	17,247		1978	16,934	8,463
1947	15,400		1979	16,952	9,162
1948	14,916		1980	17,285	9,645
1949	14,267		1981	17,657	9,610
1950	12,942		1982	18,036	10,175
1951	9,577		1983	17,794	9,983
1952	8,412		1984	17,915	10,079
1953	6,271		1985	17,855	10,031
1954	5,781		1986	19,773	10,833
1955	3,381		1987	18,814	10,432
1956	6,002		1988	19,294	10,633
1957	5,000		1989	19,054	10,533
1958	5,488		1990	18,274	10,019
1959	5,383		1991	17,434	9,506
1960	6,249	2,532	1992	16,016	9,164
1961	8,805	3,131	1993	14,414	7,683
1962	9,001	3,753	1994	13,483	7,824
1963	10,308	4,381	1995	10,964	6,691
1964	10,125	5,092	1996	9,864	5,775
1965	8,264	4,158	1997	7,501	4,501
1966	8,037	3,470	1998	5,483	3,155
1967	8,565	3,581	1999	4,330	2,164
1968	8,819	3,385	2000	4,074	2,328
1969	9,306	3,737	2001	4,125	2,404
1970	8,451	3,619	2002	3,547	1,667
1971	17,293	8,473	2003	3,830	1,917